

## ETV の ISO 化に関するメリット・デメリット

対象	メリット	デメリット（懸念を含む）
一般国民・技術利用者	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ISO 化により技術の信頼性が高まることで、海外技術が採用しやすくなる。</li> </ul>	
申請・登録事業者 （技術開発事業者）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・海外でのアピール度が向上し、海外進出機会が増加する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・実証機関の ISO 規格への審査・登録に係るコスト負担が、実証費用にも影響してくるのではないか。</li> <li>・既の実証した技術を持つ事業者が、ISO-ETV においても、実証された扱いとするには、再度実証する必要がある可能性があるのではないか。</li> </ul>
実証機関	<ul style="list-style-type: none"> <li>・有力な実証機関であれば海外進出の機会が増加する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ISO 規格の要件を満たす実証機関となるための審査・登録が必要となり、結果として実証費用に影響してくるのではないか。</li> </ul>
環境省	<ul style="list-style-type: none"> <li>・環境技術の普及に関する海外との連携体制がさらに進むことが見込まれる。</li> <li>・ISO 化に協力することにより、国際社会での地位向上につながる可能性がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・現在の ISO 規格の提案内容では、現行の国内事業体制に見直しが必要になるのではないか。</li> </ul>

ISO-ETV の詳細はまだ明確化されていないので、上記はあくまでも想定です。